

勿凝学問 318

日本病院会の常任理事会で配付した「経済財政の中長期試算」

2010年6月29日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

以前、「[僕の需要はコンサル需要だな](#)」という文章を書いたけど、どうも最近は何か状況が変わってきた雰囲気があり、僕を呼ぶことは、その人たちに勇気がある証明というか、その組織が政治的に中立であり、開かれた組織であることの証明というか、そういう対外的な広報活動の一環として、僕が呼ばれているような気がしないでもない。

先日は、日本病院会の常任理事会に、僕は参与として参加したわけだけど、前任者の宇沢弘文先生と違って、僕がおとなしく座っているわけがないことは、彼らは承知の上での僕のご指名。他には、日本医師会も、小沢さんとお友だちらしい原中さんの体制の下での医療政策会議のメンバーに、僕を指名。日医などは、僕が、2008年1月に日医の新聞紙上で、日医に宣戦布告をして、

- [「2008年はおだやかな年になるのか、それともまた事件の連続？」](#)『日医ニュース』第1114号〔2007年12月21日脱稿〕

その後、僕の論に反論しようとした形跡が若干あるんだけど、その道を断念して、前唐体制の下での医療政策会議のメンバーに僕を加える判断をする。そうすると、医療政策会議の場で、僕から、日医を批判されたりと、

- 勿凝学問 176 [社会保障国民会議医療介護シミュレーション前提と日医](#)
- 勿凝学問 188 [そんな戯けたことばかり言ってたんじゃ、講演断るかもしれないよ、日医——とにかく邪魔をしないでくれと言ってるだろう](#)

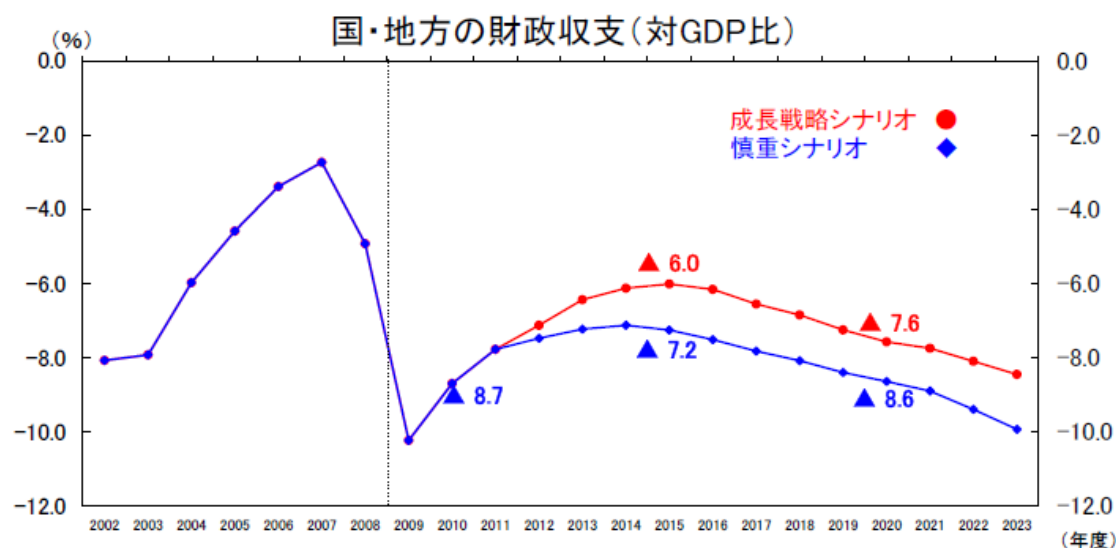
さんざんな目にあっているはずなんだけど、この度再び医療政策会議のメンバーにご指名。

そして、日本病院会も、日医も、勇気があるなあと思うことは、6月2日の小沢鳩山体制が崩壊するより前に、日本で一番最初に小沢鳩山体制に向けた反政府活動をはじめた僕に連絡をしているところ。僕がどういう考えを持って発言し、普通の人とは行動原理がかなり違うことが世の中に少しばかり知られるようになった今、かつてのコンサル需要とは違った、不思議な需要が生まれていることを感じている。

さて、その日本病院会の常任理事会は、1時から5時までの4時間。うち、前半は報告事項で、後半が協議事項となる。そして、後半になると、いきなり、議題が政治との関わり

方、財源の話になった。

そこで何人かの先生が財源調達に関する持論を展開されはじめたので、僕は、彼らの傷口(?)が広がってはいけないなと思って、事務局に、6月22日に閣議決定された「[経済財政の中長期試算](#)」を、大至急印刷してみんなに配付してもらうように頼む。そして、3ページの次の図を示して、



「はい、国のGDPは約500兆円です。では、GDP比マイナス8.7%というのは、だいたいいくらくらいになると思いますか？」

「では、消費税1%の税収は？」

「所得税最高税率1%を上げたときの税収は？」

と、前日に講義の中で学生に話したことと同じ説明をする。

そして、僕が一応の説明をし終えたら、座長である会長は、僕の話をきいて満足そうに、「ご説明ありがとうございました。財源の話はもうこれ以上いいですね。では、次に行きましょう」と言って、議題を変えてしまった。さっきまで、「負担増の前にまだやることもあるだろう」とか「消費税の他に所得税も上げようとしているとは何事だ」とか「昨日、我々医師の先輩でもある自見さんにあつたら、増税しなくても大丈夫だと言っていた」などの話であれだけ盛り上がっていたのに”(^_^)”。会長たちの期待通りの仕事をしてしまったんだろうかね(笑)。

その後、僕は、事務局に次の資料を頼んで配付してもらい、会議の最後に「帰りの新幹線や、飛行機の中ででも読んでおいてください」と言って若干の説明をし、その日のお役目は終わり。

- 勿凝学問 304 [私の仕事は「かつて一度も事の成り行きに影響を与えることができなかった予言」——えにしの会での7分間スピーチ](#)

- 勿凝学問 306 [負担増のタイミングと社会保障の取り分](#)
- 勿凝学問 310 [「日本の経済・国民生活を守る仕事に就く者たちが挙国一致で取り組むべき課題」の意味](#)
- 勿凝学問 312 [まともな野党が生まれてきたというこの国の好機——政権交代の意義は、やっぱり、バカな最大野党がいなくなったことなんだよ](#)
- 勿凝学問 316 [野党に助けてもらったから与党も譲ってあげないとね——負担を論じるということは給付を論じること](#)

あの時、話題となっていた消費税の増税の話について、僕がコメントしたことは、次にありますので、あの時ご出席されていた方々、次もながめておいてくださいませ。

- 勿凝学問 185 [医療経営と消費税改革——消費税に対する自民・民主の具体的方針](#)

日本病院会の常任理事会に出席しておもしろかったことは、今年の、世間が言う「政権交代」——僕は「政治の暴力的な破壊」だと思っただけ——のせいで（おかげで）、医療人たちも、政治家の言うこと、およびマニフェストをまったく信用しなくなっていることである。各党のマニフェストが配られていたけど、それについては、会議の中で、「狼少年みないですね」とコメントがあっただけで、終了。

休憩時間に、ある人が僕に話しかけてきて、「政治家というのは、すました顔してビックリするくらいにウソをつくんですね」と。僕は、「彼らは、選挙で勝つという就職活動で大変ですからね」と答える。昨年行われた政治の暴力的な破壊は、政治家と有権者の間に細々と残っていた信頼関係を暴力的に破壊してしまったわけだからね。

それと、以前から思っていたことで確信したことは——医療界は、当選させる力を誇示するのではなく、「落とす力」を政治家に突きつけることだね。他のところで聞いた話だけど、某党の幹事長代理は、「次回の診療報酬介護報酬の同時改定は、今の政権の下で行われることをお忘れなく」と医療人に言い回っているらしい。堂々と政策の私物化宣言をしているわけだけど、そんな輩には、落とす力を示してやればいいんだよ。候補者が落ちて困るのは、彼ら政党の幹部なんだからね。